

常見美紀子（東京家政大学）

従来より、「点・線・面による服飾デザイン論」に基づく演習方法について研究を進めるとともに、その成果を発表してきた（註1）。今回の「イメージづくりから実物大の衣服まで一貫した服飾デザイン演習」に対して、学生は「大変な演習であった」と感想をのべながら、結果「とても楽しかった、自分でこんな作品がつけるとは驚きであった」と肯定的な意見が多くきかれた。学生にイメージから発想し、デザインを実際の形にする面白さを実感させるという成果をあげることができたので報告する。

まず「イメージ」を写真や素材をつかって表現する。つぎにハーフサイズボディの上で、点・線・面の素材を用い、3次元での素材の把握や加工を体験する。引き続きイメージを具体化するため、立体裁断によってイメージをトワルで表現した。最後にイメージを的確に表す素材を使って衣服に仕上げた。時間は、90分2時限続き14回である。各演習はつぎのとうりである。①布によるイメージ表現②写真によるイメージ表現③素材によるイメージ表現④点的素材によるイメージ表現⑤線的素材によるイメージ表現⑥点・線・面の複合によるイメージ表現⑦トップの立体裁断⑧ボトムの立体裁断⑨基本に装飾⑩ドレープブラウスの立体裁断⑪創作デザインの立体裁断1⑫創作デザインの立体裁断2⑬素材による創作デザイン表現⑭作品の合評と各人の最初から最後まで演習の課題作品の説明・感想

註1) 純粋形態による服飾デザイン教育法 平成3年3月 筑波大学芸術研究科修士論文

『服飾デザイン』 平成6年3月 文部省著作教科書(共著) 実教出版株式会社

ファッションデザインの発想法 平成8年3月 平成7年度衣服研究奨励賞受賞 (財)衣服研究振興会